

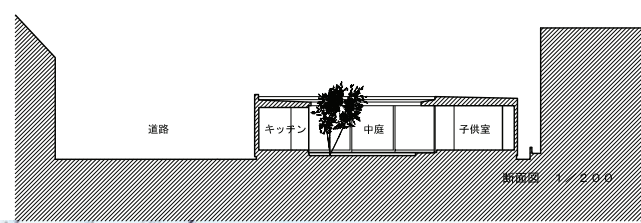
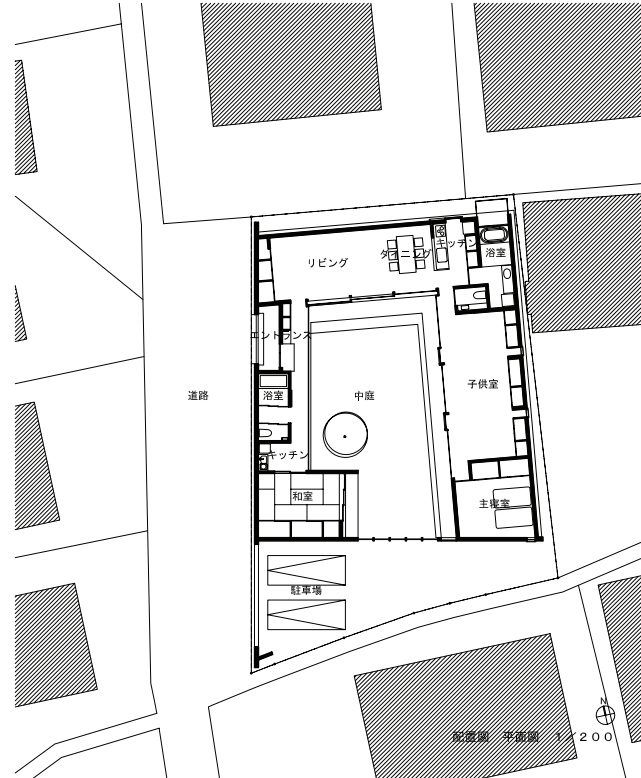
# COURT HOUSE

■自然を引き込む中庭  
敷地は広島平野北端に位置し、川沿いの平地にありながら、そこからは緑豊かな山並みを間近に大きく見上げる事ができる。一方、かつて農村であったこの地域は住宅地に変換されつつあり、この敷地もすでに周囲を2階建ての住宅に囲まれている。次第に遠のきつつある自然をもう一度生活の中心に引き寄せる装置として、コートハウスという形式を選択した。

■多世代が共有できるフラットな2世帯住宅  
平層の低いボリュームは隣地への影響を最小限にし、近隣と適度な距離を保つ事によって住宅の静寂とプライバシーをつくりだす。中庭に立つと山の緑と空の青が生活と一体となり、そこから住宅のほぼ全ての場所を見渡す事ができる。子供でも高齢者でも住宅としても仕事場としても、できるだけ多くの世代に長く使ってもらえるように、ぽっかりと開けた芝生広場の周りに、大きな箱型の空間がいくつかあるだけのよう。人間の活動と建築の構成がルーズでゆったりとした関係を持つように意識した。

■温暖な気候を生かした開放的な住宅  
比較的温暖な地域性を生かして、中間期の快適な気候を積極的に取り入れる開放性を旨としている。気密性、断熱性よりも通風、採光を重視し、各部屋の2方向通風開口、望天井内通気、庇による日照のコントロールを積極的に行った。その上で、気候の厳しい夏をの高気密高断熱対応は生活時間の長いリビング・ダイニング及び2つの寝室に対して限定的に行うことで、空間の開放性とコストバランスの両立を図った。

■地域の中庭を演出するファサード  
袋小路となっている敷地前面道路からは、人がやっと一人通れるほどの距離がいくつも確保されており、地域の歩行者ネットワークの結節点となっている。子供たちにとっては身近な遊び場であり、大人たちにとっては井戸端会議の場所である。この袋小路に面する長いファサードに木の柔らかな質感を生かすことで、地域のやさやかな中庭にインテリアのような性質をもたらす事を期待している。建物のボリュームは木の水平なラインに置き換えられ、山と空を住宅地の風景から切り取り手元を引き寄せている。



子供室から中庭越しにリビングを見る  
PHOTO: Kazunori Nomura



西側外観  
PHOTO: Kazunori Nomura



周辺の状況を示す写真



中庭夜景  
PHOTO: Kazunori Nomura